

自分の魂は自分で守る

# 死んでしまったら 私のことも 話さない

Nadie Hablará De Nosotras Cuando Hayamos Muerto

サン・セバスチャン国際映画祭'95  
最優秀・女優、撮影、審査員特別賞受賞

ゴヤ賞'95

最優秀・作品、脚本、新人監督、主演女優、  
助演女優、音楽、編集、製作者賞受賞



ビクトリア・アブリル 監督・脚本: アグスティン・ディアス・ヤネス

フェデリコ・ルッピ ビラル・バルテム ダニエル・ヒメネス・カチョ アナ・オフェリア・ムルビア ギレルモ・ヒル 製作: エドムンド・ヒル・カサス 製作協力: マノロ・マッジ/ハビエル・ラモス  
製作指揮: ホセ・ルイス・エスコラル 撮影監督: フランシスコ・フェメニア 編集: ホセ・サルセド 音楽: ベルナルド・ボネッツィ 美術監督: ペンハミン・フェルナンデス 衣装: ホセ・マリア・デ・コシオ  
特殊メイク: カルロス・バラデラ 製作: レン・プロダクション/フラメンコ・フィルムズ/シャロック/カルテル 製作協力: ソゲバック/カナル+  
1995年/スペイン映画/ビスタサイズ/104分/ドルビーステレオ 配給: デラ・コーポレーション

# Nadie Hablará De Nosotras Cuando Hayamos Muerto

**タイトルにだまされないで！**

**これはひとりの女性がモラルを見つけ、  
怒りを高めていく物語。**

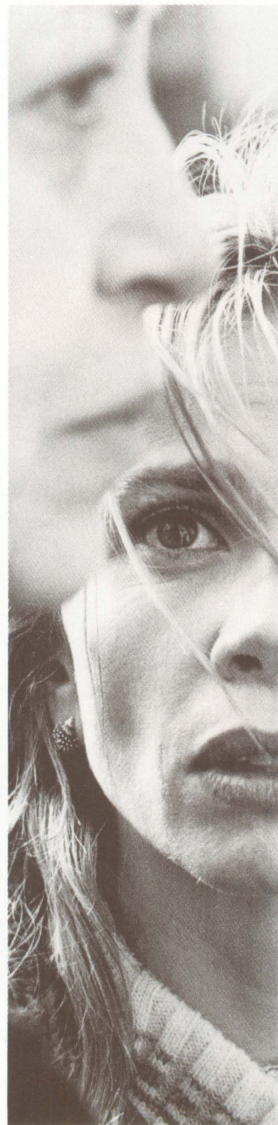
「死んでしまったら私のことなんか誰も話さない」。  
このタイトルにダマされちゃいけません。これは元氣  
で、出たとこ勝負で（ラティーノのノリ！）戦って行  
くひとりの女が、しだいに誇りに目覚め、怒りを高め  
ていく物語。

グロリア（ビクトリア・アブリル）は、「女の幸せは  
男で決まる」と信じる女性。男たちに肩を並べて生き  
ていくのは正直疲れる。だったらエネルギーを“自分  
磨き”に使う、誰もが認める“いい男”ゲットに向け  
た方が効率がいいし、ずっと近道……そんな彼女が射  
止めたのは、スペインの女なら誰でも、（男でも）憧れ  
る人気闘牛士を射止めて、お金も名誉も望むまま！

ところが、彼女の“幸せ”はあっけなく付き崩され  
てしまう。牡牛の鋭い角で腹を突き抜かれた夫は重傷  
を負い、ベッドに横たわり眠り続けている。そんな生  
活に耐えきれなくなった彼女は、アルコールに浸り、  
やがて逃げるようにメキシコへ。

夜の女にまで身を落としたグロリアを変えるのは、  
目の前で起こった凄惨な事件。それまではやり場のな  
いまま、内側に、自分に向けていた怒りの刃を、彼女  
は外へ、男たちへとぶつけていく。自分の言葉で怒り  
を投げつけていく。ストーリーの展開に従って、どん  
どん変わっていく彼女の“面構え”にもご注目。おど  
おどしていた目に輝きが戻り、生の感情をあらわにし  
ていく。面接合格の見返りに体を要求する男たちに、  
自分勝手な都合を押しつける男たちに、グロリアは怒  
りをぶつけていく。マチスモ（男優位）の気分が色濃く  
残る本国スペインから、フランスへ、欧州全体にまで、  
女性たちの拍手の波が広がっていったのもよく分かる。

あなたもグロリアと一緒に、見栄っ張りなえばりん  
坊の男に平手をかまさない！



**死んでしまったら  
私のことなんか  
誰も  
話さない**



## スペインから新しい風

ビクトル・エリセやペドロ・アルモドバルが開いた  
世界航路を、新しい風に帆を膨らませて順風航海中な  
のがアグスティン・ディアス・ヤネス。初監督のこの  
作品で、「サン・セバスチャン国際映画祭'95」3部門  
（最優秀・女優、撮影、審査員特別賞受賞）に続き、ス  
ペインのアカデミー賞＝「ゴヤ賞'95」の主要8部門  
（最優秀・作品、脚本、新人監督、主演女優、助演女優、  
音楽、編集、製作者賞）を制覇した。

映画は彼女がたったの5ペセタで、男の性器をしや  
ぶるおぞましいシーンから始まる…それは夢も希望も  
ないグロリアの生活そのもの。弱さからアルコールに  
逃げ、やがてモラルに目覚め、強くなっていく主人公  
を演じるのは、アルモドバル映画のヒロイン、ビクト  
リア・アブリル。『ハイヒール』や『キカ』で見たファ  
ッションブルなイメージは別人のよう、ほとんどノー・  
メイクの熱演で魅せてくれる。細部まで書き込まれた  
ヤネスの脚本とともに、作品の完成度を高めるのは存  
在感あふれる脇役たち。罪の意識に悩みながら、グロ  
リアを執拗に追う組織の殺し屋を演じるのはアルゼン  
チンの人気俳優フェデリコ・ルッピ。威厳と優しさを合  
わせ持つ義母を名優ビラル・バルデムが演じている。  
この義理の母娘  
の“同志愛”のよ  
うな演技のかけあ  
いがクライマックス  
を盛り上げる。



▶監督とアブリル

監督・脚本：アグスティン・ディアス・ヤネス  
撮影監督：フランシスコ・フェメニア  
編集：ホセ・サルセド  
音楽：ベルナルド・ボネッツィ  
製作：レン・プロダクション/フランメンコ・フィルムズ  
/シャロック/カルテル  
製作協力：ソゲバック/カナルナ

1995年/スペイン映画/ビスタサイズ/104分/ドルビーステレオ 配給：デラ・コーポレーション

## 1997年陽春ロードショー

特別鑑賞券¥1500 絶賛発売中！（当日一般¥1800の処）  
当劇場窓口にて絶賛発売中。

お座席のご飲食はおことわりしております。ロビーにてお願い致します。

## シネマスクエア

とうきゅう

新宿コマ劇場向いミラノ座3F 03(3232)9274  
日・祝10:30 12:35 2:40 4:45 6:50 土曜レイトショー-PM8:55

